

発行所（郵便番号100）
東京都千代田区丸の内2-4-1
丸の内ビルディング781号室
社団法人スウェーデン社会研究所
Tel (212) 4007・1447
編集者 中嶋 博
印刷所 関東図書株式会社
定価200円（年間購読料参千円）
1985年7月25日発行
第17巻 第7.8合併号
（毎月1回25日発行）
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol. 17 No. 7.8 合併号

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

北欧諸国の政治家たち

Statesmen in Nordic Countries

理事・明治大学教授 岡野 加穂留

Director, Prof. Kaoru Okano

スウェーデンだけの研究は無意味。北欧諸国の中でスウェーデンの位置づけ。北半球諸国・地球全体におけるスウェーデン政治の特質といった観点が必要。つまり、スウェーデン地域、スカンジナビア・ブロック、地球政治の三視点である。30年ほど前からこの方法で比較政治(Comparative Government and Politics)研究を始め、1963年に、武藤光朗先生・渡辺朝代議士らと北欧3国に行ってから、北欧デモクラシー(Nordic Democracy: Scandinavian Democracy)に深い興味をいだくようになった。

オンブツマン(オンバズマンではない!)研究などでも、『大陸法』(Continental Law: Corpus juris civilis 理論的・書齋的・演繹的・アリストテレス的・法典主義などの特徴)と『英米法』(Anglo-American Law: Common Law 実際の・実験的・帰納的・ペイコン的・先例拘束的・慣習的・判例主義などの特徴)の違いを客観的に認識し、その中から「北欧法圏」諸国の法的特質をとらえながら、スウェーデン型オンブツマン、デンマーク型オンブツマン、ノルウェー型オンブツマンの客観分析が必要である。

政治家の比較研究も興味をそそる。発展途上国型といっても、アフリカ・中東・東南アの違い、宗教的背景の違い、カリスマ的・非カリスマ的リーダーの違いがある。一口に“英米”といっても、英と米はこれまたおお違い。ラテン・カトリックの中米・南米・南欧も違だし、プロテスタント・ゲルマンの中欧と北欧(ルッター福音派)も異なる。

スウェーデンの政治家と北欧諸国の政治家。この双方は明らかに共通点がある。日本では、政治家とはいえぬ政治屋とか政治家者の“談合”(政

治的“入札”のための料亭・待合いでの根回し・すり合せなど)が目立つ。北欧型政治家の共通点といえば、第1に自己犠牲の精神かもしれぬ。文字通り、寝食を忘れて、高度の福祉国家の建設と、北欧地帯に核の無い政治の実現、ヨーロッパの東西緊張の緩和、そして世界の平和に本腰を入れて取り組んでいる。パルメ、ソルサ、ヨルゲンセン、オーセンたちとひざを交えていると、このことを痛感する。日本ではみられぬすぐれた政治家としての資質だ。

第2は、質素な生活(plain living)に、質実剛健。そろいもそろって、戦後日本社会では敗戦の劣等感から、すーっと消えてしまった「きかん坊」(飢・寒・乏に耐えられる人間)精神の持ち主たちだ。社会悪・不正義に対して、敢然と立ち向う面構えをしている。第3は、不とう不屈の精神とヒューマニズム。第4は「和而不同」の立場の堅持。毎年のように、北欧諸国へ“臨床政治”の考察に行くのは、21世紀に向けてスウェーデン政治を軸にどのような方向に動いていくかを観るためである。小生が主催をしている「福祉を再考するゼミナール」の位置づけもこのところにある。

目次

| |
|----------------------------------|
| 北欧諸国の政治家たち.....岡野加穂留... 1 |
| (Göteborg通信)福祉医療の現実...三瓶 恵子... 2 |
| <新刊紹介> |
| 白夜の国ぐに(武田龍夫氏著) |
| 日本語スウェーデン語小辞典(松下正三氏編) |
| SIPニュース |
| Current Swedenの目次(10) |
| 寄贈図書・資料の紹介 |

福祉医療の現実

会員 三 瓶 恵 子

Ms. Keiko Kjellsson Sampei

5月第2週に入ってようやく、200年ぶりの寒さだった冬が終わったと思う間もなく、真夏のような日々が3週間程続き、その後また早春に戻ったような肌寒い日々になったりという不安定な天候が続いています。

長い冬が常にもまして長かったために、春の訪れとともに木々、花々が一斉に芽吹き、ほれほれする美しさでしたが、反面、ここ数十年で最悪の花粉アレルギーの発現となったそうです。花粉アレルギーというのは、一般的には、何年か経ってから突然症状が出はじめるものなのだそうで、日本人の友人達から「スウェーデンに来て5年目くらいから始まるようよ。」とおどかさされましたが、今年は私はまだ大丈夫でした。

花粉アレルギーとは別の原因で、この春は病院の救急外来に何回も行ったり、入院したりしました。これまで病院とはまったく縁なく暮らしていたので、初めての体験に驚いたり、感心したり、あきれたりしました。

まずあきれたことから書きますと、体調が悪くなって救急外来（ヨーテボリ市ではサールグレンスカ病院とエストラ病院の二大総合病院で24時間受けつけています。）に電話をします。すると症状によって応待する看護婦の指示——そのまま安静にして様子を見よ、とか、かかりつけの私立の医者に連絡せよ、とか——が違いますが、彼女が「救急」だと判断した場合はすぐ病院に行くことになります。ところが電話をした時点ですでに、「順番待ちの人が多くいるので3時間後に来るように。」と言われるのです。（私の経験ではここでの待ち時間は平均3時間でした。あらかじめ電話をしないで直接行くと待ち時間はもっと長くなるようです。）3時間後に病院につき、基本料金50クローナ（≒1,400円）を払って待ちあい室に腰かけてからまた3時間ほど待たされるのです。「どうしてこれで救急なの?!」という不満がいつも待ちあい室のあちこちでかれました。私もまったく同感です。交通事故等の本当の(?)

急患はまた別なのでしょうが、私のバレーボールの生徒がトレーニング中に膝を複雑骨折した時にも救急で何時間も待たされたそうです。

で、次に、救急でなく普通の外来に予約をとろうとしますと（当日受けつけはありません）、私立の医者でも大病院でも、継続治療でないかぎり最も早くても1カ月後でないと言われます。先日、子宮癌の検査をしてもらおうとして公立の病院に電話をかけたところ、「行きつけの私立の医者に相談しなさい。」（こっちは大病院でいろいろとむずかしい患者が来るのだからそのような個人的な検査にまでかかざらわってられない、というトーンでした。）と言われ、それでしかたなく「かかりつけの私立の医者」を開拓するべく電話帳を繰って電話したのですが、どこでももう夏休みに入っていて（そうです。お医者さんだとして夏休みはしっかり何週間もとるのです。）連絡がとれませんでした。「こんなことでもいいのか!」という怒りにかられましたよ、本当に。でもまあ「福祉医療」のために弁護しますと、以前に住んでいたエーレブロー市やウップサラ市では20歳以上の市在住の婦人には2年毎に定期的に無料検査が実施されますので、居住地域の運・不運なのかもしれません。ちなみにヨーテボリ市は歯科の予防・治療体制は前二市にくらべるとずっとよいようです。

少し脱線してしまいましたが、なぜそのような待ち時間が長いのかといいますと、これはもう、患者数に対して医師の数が少ないからです。それが絶対的なものか、相対的なものかはよくわかりませんが。救急外来も一般外来も、原則として患者一人につき15分として計算してウェイティング・リストを作っているようです。つまり治療が15分をこえればそのまま次の予定にずれこんで何十分も何時間も待たされることになるわけです。

次に、感心したことは、特別のことがないかぎり、費用はいつも50クローナですむということでした。処方せんをもって薬局に行き買う薬代は別で

すが、これは私立の医者にかかった場合も同様で、50クローナですみます。私立といえども公的体制に組みこまれているわけです。入院した場合には一日につき42クローナの費用が患者負担となりますが、現在疾病保険 sjukpenning の最低保障額が45クローナですから、どの患者も基本的には「足が出ない」ようになっていきます。入院中は、寝まきやガウン・タオル（一部の病院では下着まで）等、病院のそなえつけのものを使うことが原則となっています。（長期入院患者は各自の好みの家から持参したガウン等を着ているようです。）ですから入院に際して必要なものといえば、歯ぶらし等の洗面用具ぐらいなのです。

また社会保険局 försäkringskassan の対応の早さにも感心させられました。病院から直接連絡がいったのでしたが、入院した翌々日にはもう

保険金をうけとるための申請用紙が送られてきたのです。支払いも2週間後くらいで、なんとまあスウェーデンらしくない事務処理の早さよ、と驚きました。

こうしてスウェーデンの「福祉医療」の短所と長所をくらべてみますと、「やっぱりこういう制度の方が最終的にはいいのかなあ」という気もしてきます。「病人」として一旦認められてしまえば経済的不安なく治療をうけられますが、「病人」と認められる前の「半病人」はいらいらしながら電話が通じるのを待ち、何時間も待ちあい室で不安な気持ち、身体の苦痛に耐えねばならないのです。

ヨーテボリィ・ポステン紙の時事マンガを同誌します。日本の医療体制でも通じる冗談でしょうか。



訳：「現代の医療の会話」

- 来週また来ることになっているのですが、今日と同じ先生にみていただけるのでしょうか？
- さあ、それはお約束できませんが、今日と同じ機械を使うよう手配しますので。

(G・P紙 1985—6—19)

新刊紹介

「白夜の国ぐに」

——米ソ対立の谷間で

武田龍夫氏著

(中公新書)

凡そ国際関係の論評に正鵠を得るには、当該国のその都度都度の政治、軍事、社会、および社会関係の歴史的展開に対して、精密なる分析を加えると共に、その結果を哲学的に綜治することが最も必要である。

標記の武田龍夫先生の新著はこの意見から見てわれわれ北歐に関心を有するものに好資料を提供

するものと言うべきである。

武田先生は目下宮中式部官の職を奉ずるも、外交官として北歐諸国に在勤すること永く、北歐語に精通するというより、北歐そのものを知る点では目下のところ第一人者である。この事実こそ、本著書を大方に推挙する所以である。

(小野寺 信)

『日本語スウェーデン語小辞典』

松下正三氏編 大学書林発行

此の度『スウェーデン語小辞典』に次いで日本語・スウェーデン語の辞典が遂に完成された。未だ類のないこの難事をなし遂げられた松下氏の努力に心から敬意を表する。

この辞典には、底本として使用された『和英小辞典』に納められている15,000語の上にさらに10,000語が加わって、現代的テーマ、たとえば軍縮会議の用語、または社会や哲学や文学の広い分野にわたって、新しい言葉が納められている。

若い日をウプサラ大学に学び、以来スウェーデンおよびスウェーデン語を一途に研究して来られた松下正三氏にして、はじめて成し遂げられた偉業である。今後スウェーデンのいろいろな面を知ろうとしてスウェーデン語を志す人たちにとって、瑞日、日瑞のこの二つの辞書がどんなに役に立つか計り知れない。慶賀の至りである。

(小野寺百合子)

一定価6,200円、当研究所で5,600円でお頒ちします

《SIPニュース》

スウェーデン、休暇旅行では世界一

「観光はスウェーデンに年間300億クローナ(8,700億円)にのぼる経済的利益をもたらすと同時に、その総労働力(430万人)の5%に職を提供しているものと思われる。」

これは、最近、世界各地の74か国が参加してヨーテボリで開かれた第2回スウェーデン国際観光旅行業フェア(TUR85)において、スウェーデンの旅行業者の代表が述べたものである。スウェーデン人は、また、休暇旅行の世界記録を持つといわれ、15~65歳の人の83%が余暇を旅行に費すために家をあける。かれらのおよそ半数がその休暇をスウェーデン国内ですごす。また、海外旅行者のうちの90万人は交通機関にチャーター便を利用する。国内のキャンプが目下、人気上昇中で、去年は約120万人が550のキャンプ場でのべ1,300万泊した。

また、今年スウェーデンを旅行する人達のために次のような趣向が用意されている—1928年型のクラシックカー付の小別荘の賃貸、グランナの気球旅行、ビンデル川のヨーロッパ最長の急流旅行、人の住んでいない島の賃貸、イェムトランドのお化け屋敷一泊(気味の悪いロッキングチェア、古文書、モーニングコーヒー付で一泊65クローナ=1,885円)。

なお、この夏は、障害者のための休暇も脚光を浴びそうである。多くの旅行施設が障害者のための特別なサービスと技術的援助の提供を予定している。すなわち特別なヨットスクールや乗馬コースの開設の他、車椅子の人々のためのいかだによる急流下り等が計画されている。

来年の観光旅行業フェア(TUR86)の開催予定日は3月20日~23日。

スウェーデンの労働市場の男女間の平等を推進するための政府法案

此の程男女間の平等問題を担当する大臣が国会に提出した法案には、スウェーデンの雇用市場における女性の地位の向上をねらった一括政策の大意が描かれている。同プログラムは就学前の活動から仕事に従事しながらの訓練計画まで様々に広がるプロジェクトの支持を目的としたもので、その一部は「従来女性によって占められてきた多くの職が労働生活におけるコンピュータ利用の増大により今後余分なものとなる」ことを示した公式研究に基づくものである。

プロジェクトの中には就学前の水準の技術を男女の児童に習熟させることを目的としたものや普通異性の仕事と考えられている仕事の訓練を受けたいという被雇用者を援助するためのものである。

比較していうと、スウェーデンの労働市場において、男性と女性の比率はおよそ同程度で、例えば、1984年度値でいうと16歳から64歳までの女性の78.2%が同市場に属し、この中には7歳未満の子供をもつ女性の82.9%、7歳以上の子供をもつ女性の89.5%が含まれている—対する男性側の数値は87.0%であった。従って、この傾向が継続するならば次の10年の初めまでには、男性労働者と女性労働者の比率が等しくなるものと予想されている。

スウェーデン国会リクスダーク (Riksdag) が、今年創立 550 周年を迎えたため、去る 5 月 24 日、カール・グスタフ国王 (King Carl Gustaf) とシルビア王妃 (Queen Silvia) が閣僚や多数の国会議員の代表とともに、中央スウェーデンのアルボーガ市を訪れた。同市は、1435年に我国で初めての国民議会が招集された場所であり、しばしば、「スウェーデンの民主主義の誕生」としてひきあいに出される。すなわち今回の訪問はそれを記念して行なわれたものである。

スウェーデンは1430年代、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー三国よりなる連合国君主ポメラニア (Pomerania) のエーリク (Erik) の統治下にあったが、当時は経済的衰退、酷税、王が州長官に任命した多数のデンマーク人及びドイツ人の存在によりはなはだ不遇な時代であった。こういった不平不満は農民、貴族、商人、聖職者間にあまねく行き渡っており、ついに1434年、ペリースラーゲン近隣地域——スウェーデンの鉄地帯で我国で最初に工業化された地域——の鉱山主エンゲルブレクト・エンゲルブレクトソン (Engelbrekt Engelbrektson) が農民の支持を受けて、圧制的な外国支配者への反乱をおこした。それが成功し、同年内に国王との停戦が成立すると、1435年1月にアルボーガに国民議会が招集された。同会議において、「司教、牧師、騎士及び市の立つ町の平民等」によりエンゲルブレクトはスウェーデン軍隊の総司令官に任命された。

その後18カ月足らずにして、エンゲルブレクトはストックホルムへの帰路殺害され、反乱もその一般民衆の代弁的性格と支援を失うに到った。しかしながら、その事件はスウェーデン史上における転機であり、農民の影響力と政治力の増大をもたらした。

The Swedish Institute 発行

Current Sweden の目次一覧 (10)

スウェーデンの政治、経済、文化などあらゆる方面のトピックを速報する The Swedish Institute 発行の Current Sweden 最近号の目次をご紹介します。(Vol. 16 No. 11 につづく)。

内容についてのご照会には、当研究所も可能な限りお答えいたします。(事務局)

| No. | Date | Title |
|-----|-------|---|
| 321 | '84.8 | Bertil Ekdahl : Child Custody Rules in the Context of Swedish Family Law |
| 322 | 8 | Lena Berke : Economic Crime in Sweden |
| 323 | 8 | Karin Grönvall : The Physical and Psychological Environment of Children in Sweden |
| 324 | 8 | Peter Almerud : Culture in the Swedish Preschool |
| 325 | 9 | Stig Jacobsson : Music in Sweden |
| 326 | 10 | Claes-Göran Kjellander : National political Issues for the 1984-85 session of the Riksdag |
| 327 | 11 | Britt Aniansson and Bertil Hägerhäll : Despite ten years of International Cooperation and Many Binding Treaties : The North Sea and The Baltic Are Still Menaced by Pollution |
| 329 | '85.2 | Göran Ewerlöf : Artificial Insemination—Legislation and Debate |

寄贈図書・資料の紹介

- 北歐デモクラシー その成立と展開
早稲田大学社会科学研究所北欧部会編 早大出版部刊 1982. 5
- 育児と保育のあいだ——子育ての知恵に学ぶ
荒井 洌氏著 川島喜代詩発行 1984. 1
- 患者と図書館
菊池 佑氏、菅原 勲氏編著 明窓社刊 1983.10
- ヨーロッパよ、何処へ行く
藤牧新平氏著 東海大学紀要 教養学部第15輯 1985. 3
- トッテと大人——幼児絵本の翻訳に関する比較教育学的実験
石崎秀和氏著 慶応義塾大学・三田哲学会 哲学第77集 1983.12
- スウェーデンの教訓——財政危機と福祉社会のゆくえ
米村紀幸氏著 日本貿易振興会発行 1984.10
- スウェーデンの教育——伝統と変革
レオン・パウチャー著 中嶋 博訳 学文社刊 1985. 1
- 犯罪者処遇の思想——懲治場からスウェーデン刑政へ
坂田仁氏著（刑事法叢書8）慶応通信株式会社発行 1984,11
- 嵐の中の北歐——抵抗か中立か服従か
武田龍夫氏著 中公文庫刊 1985. 4
- 白夜の国ぐに——米ソ対立の谷間で
武田龍夫氏著（中公新書） 中央公論社刊 1985. 5

秋のスウェーデン語講習会開講予告（通算59回目）

| | | | |
|--|----------------|---------|--------|
| 普通科初級 | 9月30日より12月5日まで | 毎週月・木曜日 | 計 20 回 |
| 上級 | 10月1日より12月6日まで | 毎週火・金曜日 | 計 20 回 |
| 高等科 | 9月4日より | 毎週水曜日 | 計 10 回 |
| ……………以上各クラス共午後6時半より8時20分まで（高等科は、8時30分まで） | | | |